

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4079600534
法人名	特定非営利活動法人 あたか
事業所名	グループホーム あたか
所在地	〒 827-0001 福岡県田川郡川崎町大字安真木3083-2 (電話) 0947-72-5181

評価機関名	特定非営利活動法人 ヘルスアンドライツサポート うりずん
所在地	直方市知古1丁目6番地48号
訪問調査日	平成 20 年 7 月 27 日
評価確定日	平成20年8月11日

【情報提供項目より】(平成 20年 7月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 4 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 7 人	

(2) 建物概要

建物構造	平屋木造	造り
	1 階建ての	1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000 円	その他の経費(月額)	4,000 円	
敷金	(無)			
保証金の有無(入居一時金含)	(無)	有りの場合償却の有無	(無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(7月18日現在)

登録人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	3	要介護2	4		
要介護3	1	要介護4	0		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 84 歳	最低 70 歳	最高	89 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	川崎町立病院 日高医院 五嶋歯科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームあたかは木々や田畑に囲まれ、周囲に民家が点在する静かな里山に平成16年に開所した一ユニットのホームである。
ホーム独自の理念を事務所に掲示するとともに、具現化した理念を社提・笑顔の十ヶ条・介護の三原則に明記し、契約書に「グループホームとしての誓い」として謳っている。
運営者は地域に永く住んでおり、地域との馴染みが深く、近隣の小学生の七夕、クリスマスなど季節ごとの訪問や老友会の方々の訪問があり、入居者の楽しみになっている。農家出身の入居者が多く、季節の野菜の苗の植え付けや収穫を職員とともに行っており、その様子や花見などの行事の写真を廊下に大きく掲示している。
風通しの良い廊下で歌謡曲や童謡を歌い、運動機能を落とさないようにとホーム内外での歩行を心掛けるなど、入居者の個性や健康な機能を重視した介護計画を作成している。入居者の言葉が記載された支援記録や無断外出の際の声掛けの絶妙なタイミングには、入居者に対する職員の方々の暖かな眼差しが伺える。そして、定期的に行われた運営推進会議では参加した家族の率直な意見がホームの運営に活かされている。今後は、高齢者独居世帯になった隣人への声かけなどホームの機能を活かしながら、地域との交流を予定している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価結果に沿って、運営推進会議で行政担当者からパンフレットを活用しながら成年後見制度について話してもらったり、外部評価結果を報告している。また、把握した各入居者の食事・水分摂取量を介護支援記録に整備している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が外部評価の意義を理解し、管理者や介護計画作成担当者が職員の意見をまとめ、自己評価を実施している。
重点項目③	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議実施要領を整備し、適切なメンバーで2ヶ月毎に開催している。ホーム行事や外部評価結果を報告し、家族から要望や意見等を伺っている。職員に名札を付けてほしいとの要望があり、実践している。議事録を整備し、もよりの介護保険係に報告書を提出している。運営推進会議に参加した行政担当者が、パンフレットを活用しながら成年後見制度等を説明している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	毎月の入居利用料等支払いに来訪した家族に、入居者の日ごろの暮らしぶり等を報告したり、花見やジャガイモ堀りの写真を廊下に掲示し見てもらっている。また、運営推進会議報告書や行事等のスナップ写真を送付している。医療機関受診を支援し、随時家族に受診状況を連絡している。預かり金はなく、入居利用料の明細書を交付している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地区自治会への加入はないが、運営者が地域住民であることから地域の情報は得易く、入居者が加入していた老友会の訪問や盆踊りの巡行、近隣の小学生の七夕、クリスマスなど季節ごとの訪問がある。また、入居者家族がボランティアとしてホームの花壇の整備に訪れている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念を事務所に掲示するとともに、具現化した理念を社提・笑顔の十ヶ条・介護の三原則に明記し、契約書に「グループホームとしての誓い」として謳っている。	○	ホーム理念をさらに促進するために、地域密着型サービスの基本方針である「家庭的な環境の下、地域との交流の下」を、重要事項説明書やパンフレットに明記していただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼で、社提・笑顔の十ヶ条・介護の三原則を唱和し、日々のケアに活かしている。ホーム理念に沿った介護計画を作成している。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区自治会への加入はないが、運営者が地域住民であることから地域の情報は得易く、入居者が加入していた老友会の訪問や盆踊りの巡行、近隣の小学生の訪問がある。また、入居者家族がボランティアとしてホームの花壇の整備に訪れている。	○	開所3年が経過し、グループホームの名称等が近隣に周知されていると思われませんが、さらなる地域交流を促進するために、運営推進会議で出た意見を具体化したニュースや、ホームの行事案内などをまとめて「ホームだより」に記載し、家族や老人会、民生委員等を対象に発行されてはいかがでしょうか。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や介護計画作成担当者が職員の意見をまとめ、自己評価を実施している。前回の外部評価結果に沿って、運営推進会議で外部評価結果を報告したり、各入居者の食事・水分摂取量を把握している。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議実施要領を整備し、適切なメンバーで2ヶ月毎に開催している。ホーム行事や外部評価結果を報告し、家族から要望や意見等を伺っている。議事録を整備し、もよりの介護保険係に報告書を提出している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議ばかりでなく、ホームの入居状況を行政担当者に報告するなど、市町村と連携しながらホーム運営に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	運営推進会議に参加した行政担当者が、パンフレットを活用しながら成年後見制度等を説明している。今後は、必要に応じて制度活用を支援する予定である。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の入居利用料等支払いに来訪した家族に、入居者の日ごろの暮らしぶり等を報告したり、花見やジャガイモ堀りの写真を廊下に掲示し見てもらっている。また、運営推進会議報告書や行事等のスナップ写真を送付している。医療機関受診を支援し、随時家族に受診状況を連絡している。預かり金はなく、入居利用料の明細書を交付している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームや公的機関の意見・苦情窓口を重要事項説明書に明記し、玄関に意見箱を設置している。家族会はないが、家族来訪時や運営推進会議で家族から意見を伺っている。職員に名札を付けてほしいとの要望があり、実践している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は馴染みの関係作りの重要性を理解している。職員の離職を防止したいと、職員の希望に沿った勤務時間や勤務体制を取り入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員採用は特に基準はなく、運営者の顔見知りの職員が多い。雇用契約書を取り交わし、就業規則を整備している。職員の定期健康診断を支援したり、職員の要望に沿った勤務体制で、職員が生き生きと勤務できるよう支援している。職員の休息室を確保している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	外部の人権研修には参加していないが、日々ホームの社是・笑顔の十ヶ条・介護の3原則を唱和し、入居者の尊厳について話し合っている。運営規程や契約書に身体拘束について明記し、マニュアルを整備しているが、高齢者虐待防止マニュアルの整備がない。	○	虐待について勉強会やミーティング等で話し合いをしているので、研修記録として整備するとともに、高齢者虐待マニュアルの整備をお願いしたい。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度の研修計画は作成していないが、毎月勉強会を行っている。新規採用職員は運営者や管理者が業務内容等を指導している。職員の悩みは、運営者や管理者で対応している。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会への加入はなく、地域の同業者との交流はない。	○	年間研修計画を立てるためにも、福岡県グループホーム協議会の加入をお願いしたい。また、開所以来培ったケアを協議会の研修に参加したり他のグループホームと交流することで、さらに向上されることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の本人や家族に、ホームに来ていただき入居者と過ごしてもらっている。2日の宿泊体験から入居に至ったケースもある。行政機関とも連携しながら、入居の問い合わせには運営者や介護支援専門員がグループホームの状況を電話や出向くことで説明している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理の下ごしらえの手際の良さや包丁づかい、畑やホーム周囲の草取り等畑仕事など昔取った杵柄に職員が感心されることが多く、人生の先輩として接している。また、個性豊かな入居者に接することで、認知症や介護についてよく理解できると話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の声掛けや会話を通じて、暮らしの希望等を把握している。アセスメントの内容を日課表の中に記載し、日々の援助に活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個別の介護計画、介護記録、受診記録を一つにまとめてファイルにして情報を共有しながら、担当者会議やミーティングで、入居者や家族の意向を話し合い介護計画を作成している。介護計画に入居者や家族の意向を明記し、入居者や家族に説明している。了承した家族の署名・捺印を整備している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は毎月モニタリングや評価を実施している。入居者の状況に応じて、定期的または随時介護計画を見直し、入居者や家族に説明している。了承した家族の署名・捺印を整備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の状況に応じて、医療機関受診を支援している。「自宅に衣類を取りに帰りたい」や、「隣人と話したい」との要望をかなえたいと受診の帰りに自宅に寄るなど、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関ばかりでなく、入居者のかかりつけ医受診も支援している。入居者毎に医療機関受診記録を整備している。受診に介護支援記録を持参し、情報を交換している。受診状況や医師の指示は、随時家族に連絡している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書に重度化した場合における対応として、医療連携体制や入院時の対応、見取りについて具体的に明記している。既往症の悪化等で医療機関に入院、その後介護保険施設に入所した入居者もいるが、その経緯や家族との話し合いの記録を整備している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	契約書に「グループホームとしての誓い」として礼節と尊厳について明記するとともに、個人情報の取り扱いや守秘義務を明記している。毎日の朝礼で、社提・笑顔の十ヶ条・介護の三原則を唱和し、利用者の尊厳を損なわない対応をしている。	○	個人情報保護に関する規程を整備するとともに、ホーム内に掲示することでさらなるプライバシーの確保をお願いしたい。また、就業規則等に職業倫理である守秘義務の明記が求められる。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各入居者の生活のリズムを把握し、希望に沿った支援をしている。入浴が好きな入居者にはその都度支援したり、犬が好きな入居者には犬の散歩をお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前には嚥下体操を行い、入居者の生活暦や職歴、力量に応じて調理の下ごしらえ、味つけ、後片付け、食器洗い等を支援している。職員ばかりでなく、入居者同士で食事の介助をするなど和やかな食事風景である。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回入浴を支援しているが、お風呂が好きな入居者にはその都度シャワー等で支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	風通しの良い廊下で歌謡曲や童謡を歌い、運動機能を落とさないようにとホーム内外での歩行を心掛けている。訪問調査当日も、入居者の明るく元気な歌声がホームに響いていた。近隣で農業に従事していた入居者が多く、芋ほりや草取り等の畑仕事でおおいに力量を発揮してもらったり、オープンキッチンで職員入居者一緒におしゃべりを楽しんで食事の準備をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事計画に沿った外出ばかりでなく、季節や天候を配慮しながら、ホーム周辺を散歩している。入居者の希望に沿って、買い物や一時帰宅を支援したりしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠の弊害を理解し、夜間以外は施錠していない。帰宅願望のある入居者もいるが、見守りやタイミングを見計らった声掛けで対応している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害時の連絡網や避難経路等を整備し、消防署の協力で避難訓練を実施している。その折に、救急の手当てや蘇生法も訓練している。消火器を整備し、水・乾パン・缶詰等を備蓄している。居室・事務室等に火災探知機を設置している。	○	今後は夜間避難訓練を検討しているとのことなので、運営推進会議で地域の協力をお願いしてはいかがでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日おおよそ1400Kcalの食事の摂取量や水分摂取量を介護支援記録に記載している。入居者毎にお茶のボトルをつくり、水分摂取を支援している。入居者の嗜好や嚥下・咀嚼状態、空間失認を把握し、食事支援をしている。毎月体重測定をしているが、体重増減は1kg程度で糖尿病のコントロールも出来ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周囲の花壇には季節の花が咲いている。上がり口の段差を解消した玄関は下駄箱上の水槽で熱帯魚を飼ったり、季節の花が活かされている。玄関や廊下に椅子やソファがおかれ、入所者同士でおしゃべりができる空間を作っている。厨房と一体となった共用空間は食堂や畳みの間が設けられているが、ガラスを組み入れた戸で仕切られているので、職員や入居者はお互いの姿や動向が確認できる。広い厨房には、四方から使用できるオープンキッチン台が設置され、入居者と職員が和気藹々と調理している。適切な採光で不快な匂いもない。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の好みで畳やカーペットを敷いている。家族の写真や馴染みの日常品が置かれ、居心地の良い居室で来訪した家族と寛いでいる。		